

掲載いただき感謝致します。

経済レポート 様

特許取得済なでしこ帯板を開発 着物を自分で着られる喜びを

着付け美容専門店 RIBIAN 代表

やまぐちりな

山口里菜さん

福山市緑町2-19

電084・959・3203

<https://www.ribian.net/>



生徒からの手作りの贈り物



幼い頃から着物が大好きで、教員免許取得のため進学した大学時代に、着付け講師免許を取得し、着付け師としてアルバイトを経験。卒業後に帰郷し、「和装を末永く楽しめる教室を開きたい」という夢を叶えた。

ヘアメイクや着付けを専門に行う美容室を経営し、「いかに簡単に、素早く、綺麗に仕上げるか」をポイントに、独自に研究した山口流着付け教室を主宰している。生徒さんの困り事をなんとか楽に解決できないかと工夫を重ねてきた。そこで生み出したのが「なでしこ帯板」で、着物が着られても帯結びが難しいという悩みを解決する和装器具として、2018年に特許を取得した。「通常の帯板と違い、胴回り全体のシワが寄りやすい部分に帯板が固定でき美しい帯姿に。後ろ結びの方はもちろん、前結びの方はぐると楽に回せる設計になっています。背中部分のゴムを活用すれば、豪華な帯結びが簡単に行える等、機能性と利便性にこだわりました」。

教室では、「温故知新」の大切さを伝えたいと、対面で行うお稽古の時間を大切にしている。「着物を着ることで襟を正し、姿勢を整え、所作やふるまい等、洗練される感覚を伝えていきたいと考えています。日本の伝統技術が詰まった着物の魅力を伝え、和美人を増やすことで和文継承の架け橋になりたいです」と語る。

掲載いただき感謝致します。

備後経済レポート 様



特許取得の「なでしこ帯板」で
簡単、素早くきれいな帯結び提案

山口里菜さん

RIBIAN 代表

住所 福山市緑町2-19

電話 (084)959-3203

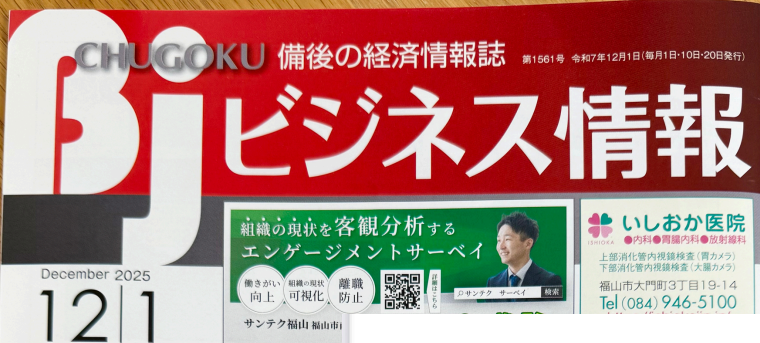
URL <https://ribian.net>

着

付け教室、ヘアメイク着付け、リンパ＆ホットストーンセラピー、まつ毛パーマを手掛けるRIBIANは、オリジナル小物「なでしこ帯板」の普及に力を入れる。山口里菜代表は「せっかく着物に興味を持ち、着付け教室に来ても帯結びを苦手に思う生徒さんが多かったので、工夫を重ねて手早く簡単・きれいに帯結びができる帯板を開発し、特許を取得しました。体型補正も容易になり、帯崩れを防ぎ、豪華な帯結びも創作しやすくなります。どんな体型ややり方（後ろ結び・前結び）にも対応でき、装着後の軽さと楽であることにもこだわりました。気楽に浴衣を着られる『ゆかた美人レッスン』や『帯結び特別講座』も開講しています。なでしこ帯板で世代を超えて何歳でも着物を楽しんでもらえるよう、和文化継承の橋渡し役になりたい」と話す。同商品は、同店とホームページで販売中。来店は完全予約制。

掲載いただき感謝致します。

ビジネス情報 様



RIBIAN (リビアン) 代表
KIMONO Designer/stylist
山口 里菜さん
福山市緑町2-19 リビアン
☎084-959-3203
<http://ribian.net/>



11月発売のデニムネクタイ

interview

人出合い 人トーク

着物に気楽に楽しめるように洗えて扱いやすいデニムに着目し、「和福デニム」と名付け今春から展開している。地場を代表する産業のデニム地で福山・広島・日本をテーマに「薔薇・鯉・富士山」などを表現した粋と品にこだわったデザインを発信できたうれしさを話す。

デニム地の着物は他にもあるが今回、着物に施す伝統的な文様である「和柄」を重視。「和服には昔から、縁起柄や吉祥柄など人の幸せを願う柄が用いられてきました。和福デニム

「温故知新」の精神大切に デニム生地に着物を展開

着物に多くの職人の情熱が込められているのが魅力です」と熱く語る。

2013年に開いた店舗では着付け教室のほか、ヘアメイクやエステなど手掛ける事業は幅広い。大切にしているのは

は着心地も高く評価されており、「ワンピース感覚で楽に着られるから、着る機会が増えてうれしい」との声が寄せられる。小さい頃から着物が好きで、「染め、刺しゅう、デザイン...」全てにおいて奥が深い。一つの

「温故知新」の精神だ。「古くからの着付けを大事にしながら、現代にマッチした物を」と開発したが、18年に特許を取得した「なでしこ帯板」が、帯が簡単で素早くきれいに仕上がり、機能性と利便性を両立させている。

11月には和福デニムのネクタイを発売。ネットショップも立ち上げた。「多くの方の協力や応援のおかげでできた感謝を忘れず、地域産業の活性化と文化の継承を胸に突き進んでいきたい。商品を身に着けた方の良縁と来福を願っております」

オススメの本
啓文社
BOOK
Selection



「最後の二色」

著／和田 竜 小学館／上:2,099円(税込)・下:1,899円(税込)

本屋大賞受賞作「村上海賊の娘」から十数年の時を経て、和田竜さん待望の新作がついに刊行されました。時は戦国。丹後の守護大名である一色一族と、その宿命の敵・長岡(細川)家の、若き武将二人の因縁の出会いから熱い戦いの日々までが語られます。この時代はとなく、織田信長・豊臣秀吉や武田・上杉あたりにスポットが当たりますが、その周縁でこんな大きな戦いがあったことや、戦国武将・細川忠興(ただあき)がなぜ長岡姓を名乗るに至ったのかなど、個人的にも歴史的な知見が広がった1冊です。そして、本書をひもとく人はみな、一色五郎のカッコよさにしびれること間違いなし! 上下巻のボリュームをものともせず、結末に向けて読む者の胸をたぎらせ、圧倒する本作。年末年始のお供にいかがでしょうか。

(啓文社 井戸 佳子)